

1.2.2 生活圏等

(1) 通勤圏・通学圏

国勢調査を基に、印西市居住者の勤務先・通学先、印西市で勤務・通学する人の居住地を把握しました。

◆印西市に居住する就業者・通学者の勤務先・通学先

・印西市内での通勤・通学者が1万人以上と最も多くなっています。市外では成田市、佐倉市、八千代市、白井市、柏市といった隣接市のほか、鉄道利用が便利な船橋市、松戸市、東京都心部などへとなっています。

◆印西市へ通勤・通学する就業者・通学者の居住地

・印西市内が1万人以上と最も多く、市外では、我孫子市、白井市、八千代市、佐倉市、船橋市など近隣地域からが多くなっています。

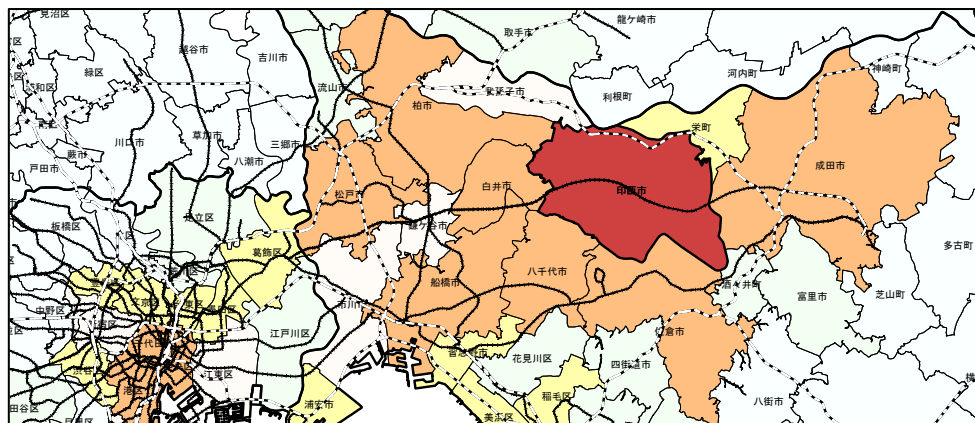


図1 印西市に居住する就業者・通学者の勤務地・通学先

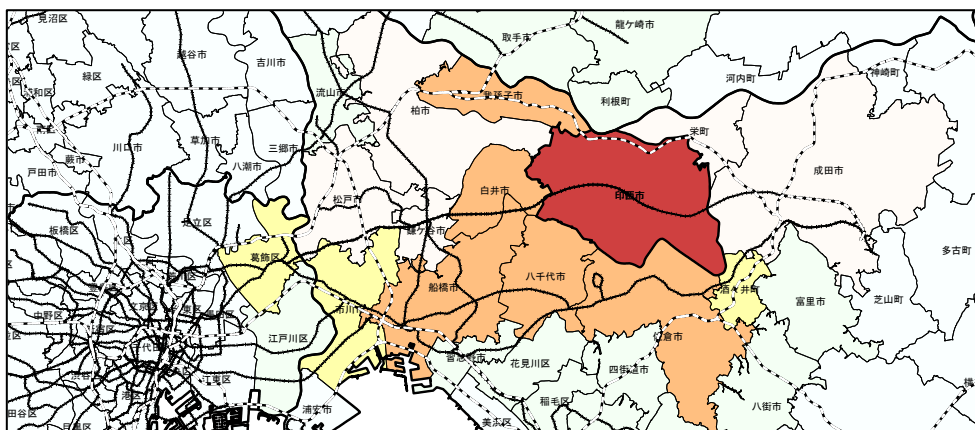


図2 印西市へ勤務・通学する就業者・通学者の居住地



出典:平成27年国勢調査

(2) 日常生活圏（私事目的における移動の起終点）

- ・ 私事目的での印西市からの移動は、成田市、白井市、船橋市の一部地域で多く、そのほか、隣接地域や柏市、松戸市など鉄道利用が便利な地域で比較的多く見られます。
- ・ 私事目的での印西市への移動は、白井市、佐倉市の一部で多く、そのほか、隣接地域からも比較的多くなっています。
- ・ 私事目的では、「他地域から印西市へ」の移動が「印西市から他地域へ」の移動よりも広範囲でトリップ数が多く、買い物などの目的で他地域から千葉ニュータウン地区に立地する大型商業施設などへ来訪する人が多いものと考えられます。

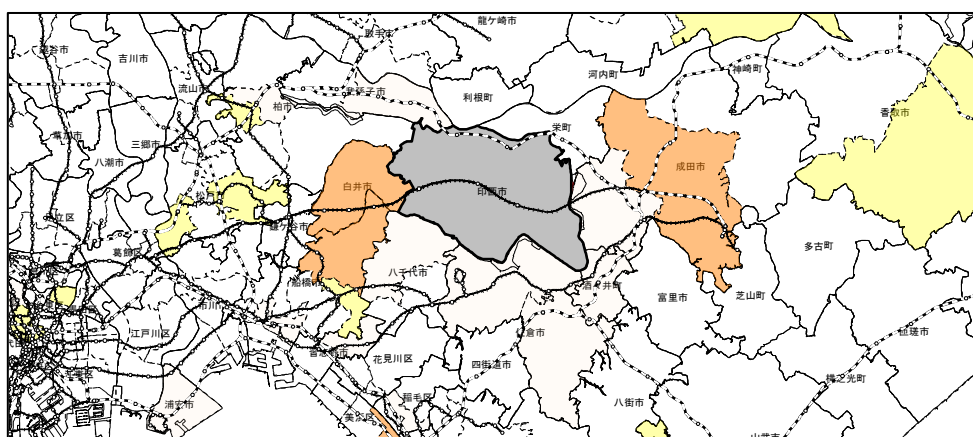


図3 印西市から他地域への移動(自宅-私事目的)

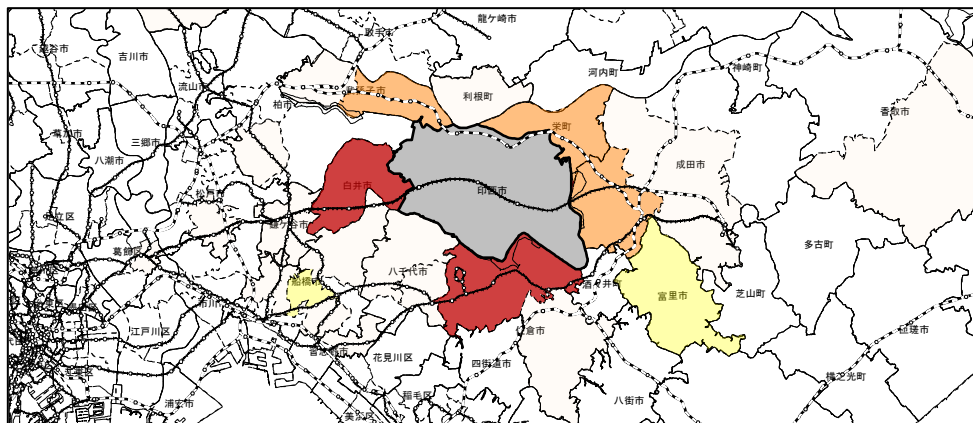
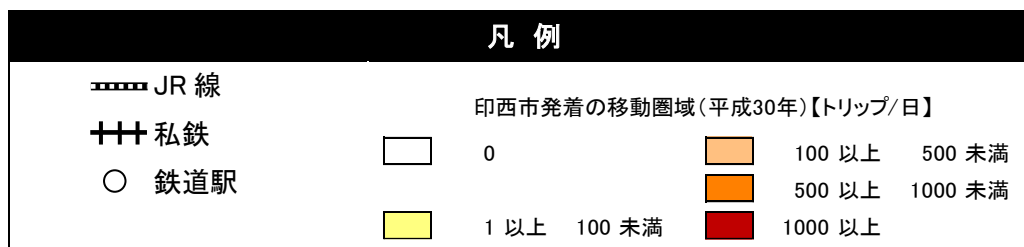


図4 他地域から印西市への移動(自宅-私事目的)



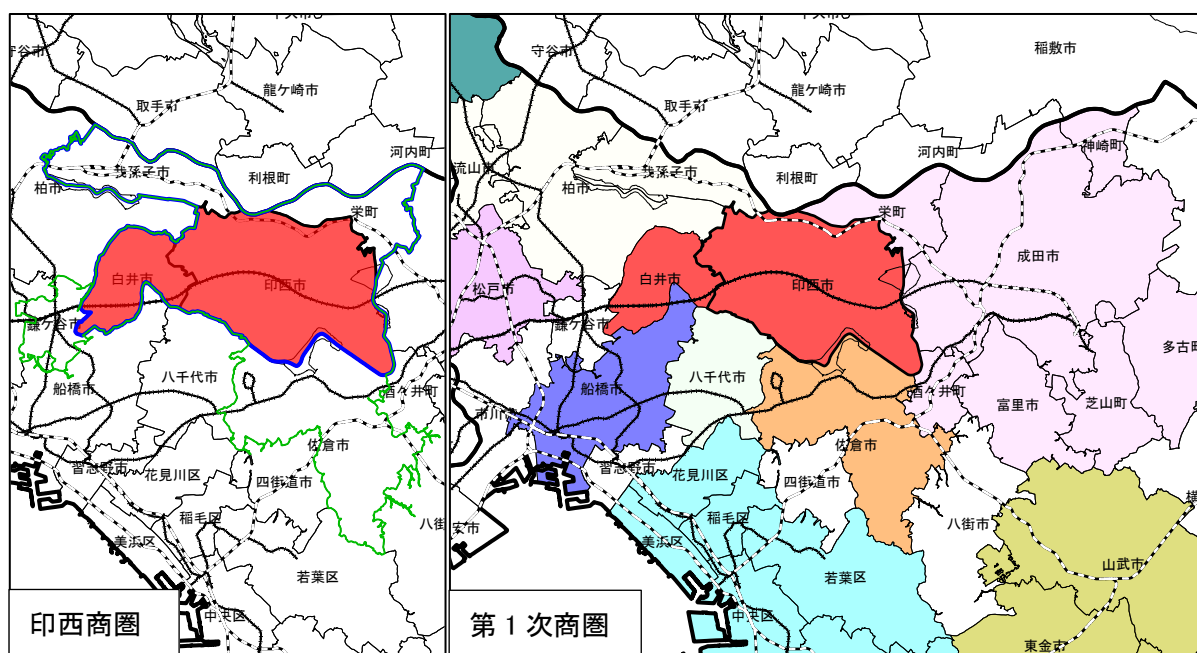
出典:平成30年東京都市圏パーソントリップ調査

注)本図は、平成30年東京都市圏パーソントリップ調査の地域区分(計画基本ゾーン)を基に集計しているため、同一市でも着色が異なる箇所があります。

注)「トリップ」とは、ある目的をもって起点から終点へ移動する際の単位であり、複数の交通手段を乗り継いでも、1つの目的で移動した場合、1トリップとします。

(3) 商圈

- ・「平成 30 年度消費者購買動向調査報告書」(千葉県) では、衣料品に対する消費者の購買地への吸引率(他市町村からみれば流出率)を基準に商圈を設定しており、「主要商圈」の一つとして印西商圈が設定されています。
- ・印西商圈においては、第 1 次商圈が印西市と白井市、第 2 次商圈は我孫子市、栄町、第 3 次商圈は鎌ヶ谷市、佐倉市となっています。印西市は千葉ニュータウン地区に多くの大規模商業施設が立地しているため主要商圈の一つとなっており、周辺地域から買い物客が来訪しているものと考えられます。



凡例			
印西商圈		第1次商圈(衣料品の購買地への吸引率が30%以上)	
—+— JR線	■ 印西1次商圈	■ 千葉商圈	■ 八千代商圈
+++ 私鉄	■ 印西2次商圈	■ 成田商圈	■ 佐倉商圈
	■ 印西3次商圈	■ 船橋商圈	■ 松戸商圈
		■ 柏商圈	■ 野田商圈
		■ 東金商圈	■ 第1次商圈なし・千葉県外

出典:平成 30 年度消費者購買動向調査報告書(千葉県)

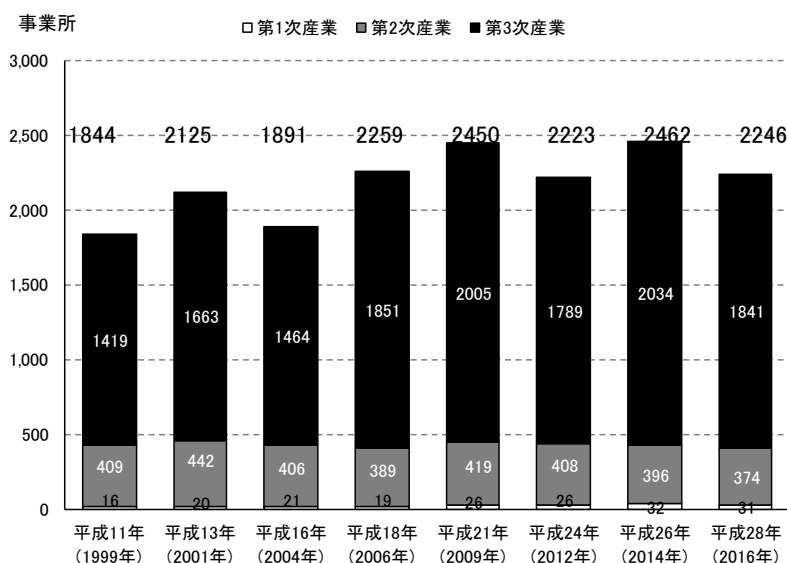
図 5 印西市および周辺市町村の第 1 次商圈

注)第 1 次商圈とは、衣料品に対する消費者の購買地への吸引率(各市町村それぞれの消費者のうち、商圈の中心となる市町村で衣料品を購入する消費者の割合)が30%を超える市町村の範囲のことを指します。また、吸引率が10%以上30%未満の市町村を第 2 次商圈、5%以上10%未満の市町村を第 3 次商圈としています。(平成 30 年度消費者購買動向調査報告書(千葉県)より)

1.2.3 産業・経済

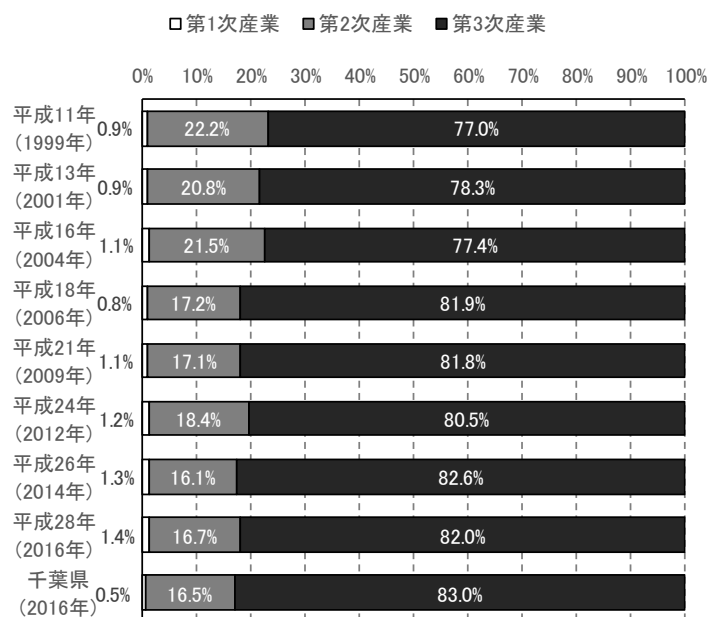
(1) 事業所数

- ・印西市の事業所数は、平成11年(1999年)の1,844から増減を繰り返して、平成28年(2016年)には2,246となりました。産業別では一貫して第3次産業が最も多くなっています。
- ・なお、事業所数の割合では各年において第3次産業の割合が高く、平成28年(2016年)の産業別構成比は、第1次産業が1.4%、第2次産業16.7%、第3次産業82.0%で、千葉県全体と比べ、第1、2次産業の割合が若干高くなっています。



出典: 事業所・企業統計調査、経済センサス

図6 印西市の産業別事業所数の推移



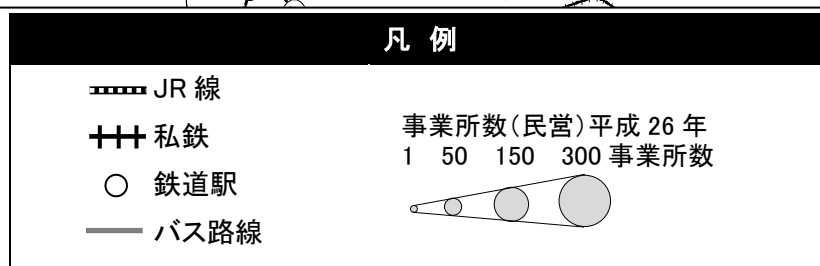
注) 構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

出典: 事業所・企業統計調査、経済センサス

図7 印西市の産業別事業所数の割合

(2) 主な事業所の立地状況(民営の事業所)

- ・印西市の民営事業所の立地状況を町丁字別に見ると、千葉ニュータウン中央駅周辺、印西牧の原駅周辺に多く民営の事業所が立地しています。

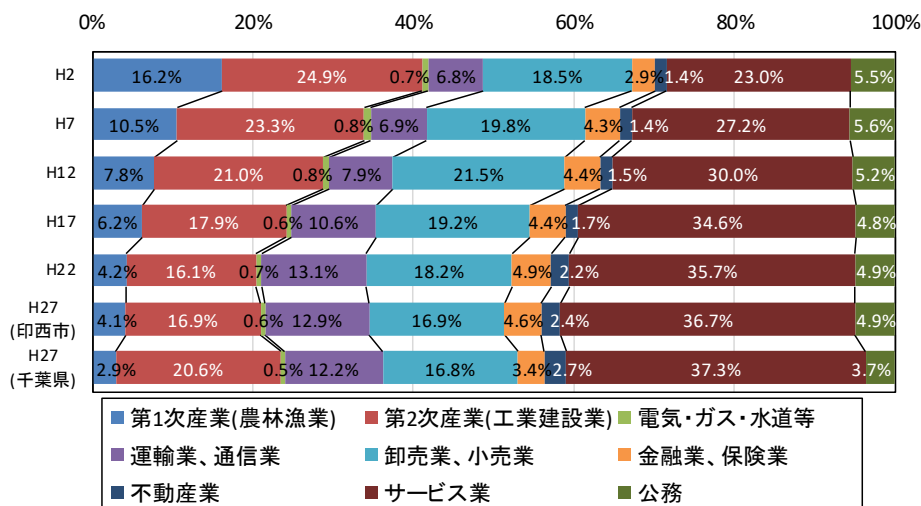


出典:平成 26 年経済センサス

図 8 印西市の民営事業所立地状況

(3) 産業別就業人口（常住地就業人口）

- ・印西市の産業別就業人口の構成比は、第1,2次産業が縮小傾向にある一方、サービス業が年々拡大しています。平成27年(2015年)では、第1次産業が4.1%、第2次産業16.9%で、第3次産業のうちサービス業が36.7%と最も高くなっています。
- ・千葉県全体と比較すると、第1次産業、金融業・保険業、公務の割合が1ポイント以上高く、反面、第2次産業は低くなっています。

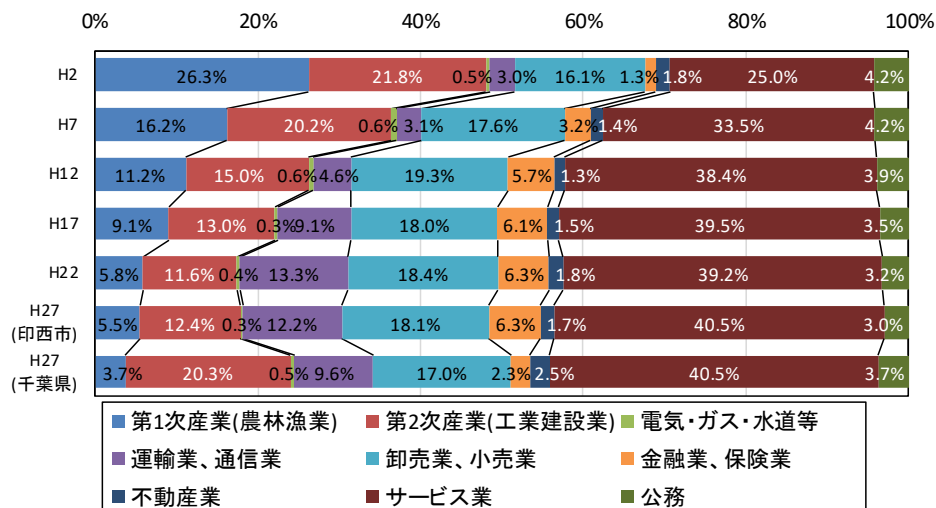


出典: 国勢調査

図9 産業別就業人口の割合

(4) 産業別従業人口（従業地就業人口）

- ・印西市の産業別従業人口の構成比から、第1,2次産業が縮小する一方、サービス業が拡大する傾向が伺えます。その結果、平成27年(2015年)では、第1次産業が5.5%、第2次産業12.4%で、第3次産業のうちサービス業が40.5%と最も高くなっています。
- ・千葉県全体と比較すると、第1次産業、運輸業・通信業、卸売業・小売業、金融業・保険業の割合が高くなっています。このことは、千葉ニュータウン地区にこれらの企業や商業施設が多く立地していることが要因と考えられます。



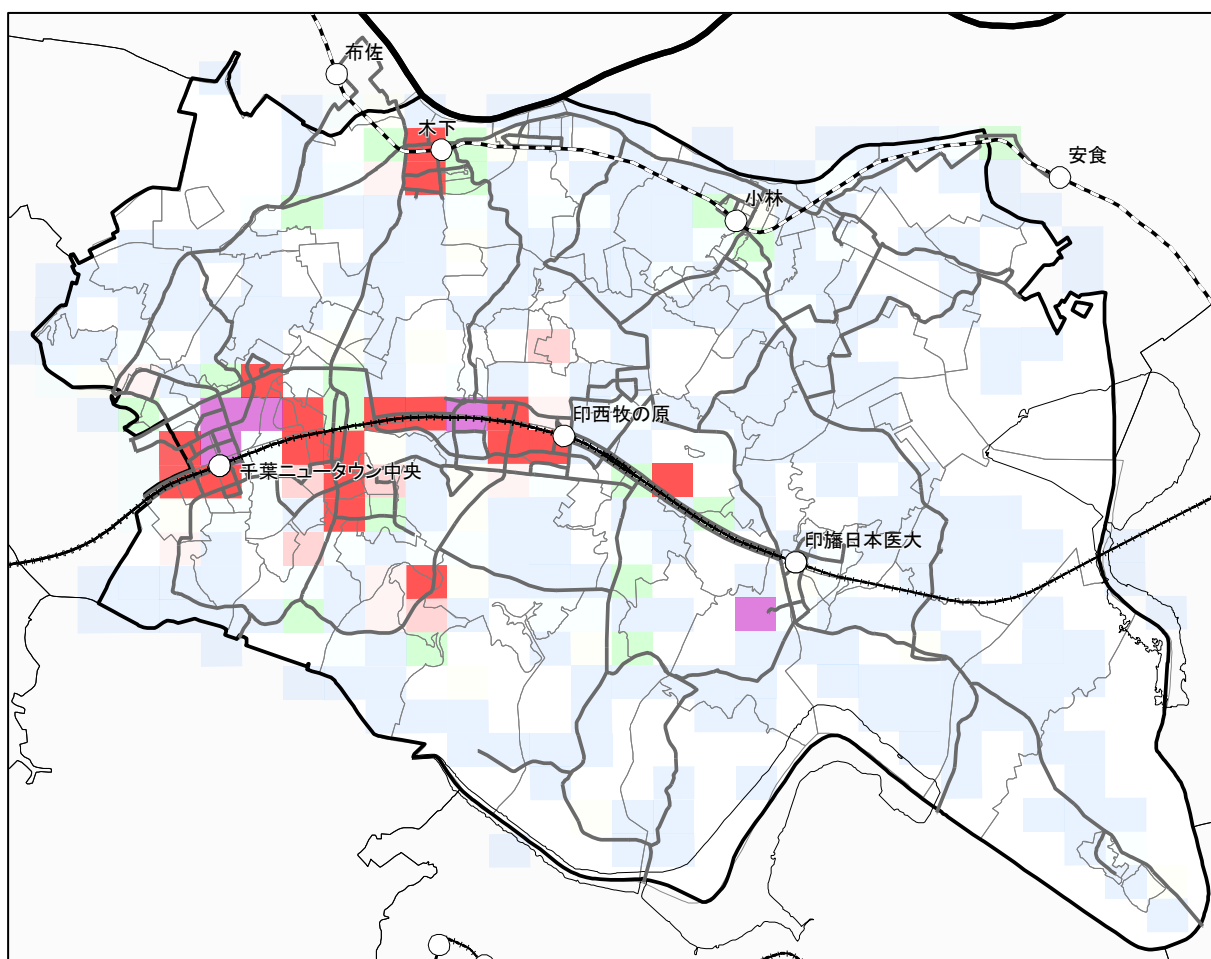
出典: 国勢調査

図10 産業別従業人口の割合

(5)メッシュ別従業員人口

1)メッシュ別従業員人口

・千葉ニュータウン地区や木下駅周辺で従業員人口が多く、特に、千葉ニュータウン中央駅から印西牧の原駅にかけての北総線（国道464号）の沿線において、従業員人口の多いメッシュ（300人以上）が見られます。これらのメッシュ内には、企業、大規模商業施設、病院、公共施設、工業団地の立地が見られます。



凡例		全従業員人口(平成28年)【人】			
—+—+—	JR線	0 または 秘匿	100 以上 150 未満	250 以上 300 未満	
++	私鉄	1 以上 50 未満	150 以上 200 未満	300 以上 1000 未満	
○	鉄道駅	50 以上 100 未満	200 以上 250 未満	1000 以上	
—	バス路線				

出典:経済センサス

図 11 従業員人口メッシュ(平成 28 年)

※従業員人口とは、調査対象の事業所に所属して働いている全ての人の数を指す。(調査対象の事業所に所属していて、他の事業所へ出向または派遣されている人も含まれる。逆に、調査対象の事業所で働いていても、他の事業所に所属している場合は含まれない。)

2)メッシュ別従業員人口【従業員人口の変化(平成18年から平成28年)】

- ・平成18年(2006年)から平成28年(2016年)までの従業員人口の変化量を見ると、千葉ニュータウン中央駅から印西牧の原駅にかけての北総線(国道464号)の沿線や、流通・工業系の企業が立地する松崎台地区での増加が特徴的です。
- ・一方、千葉ニュータウン地区でも減少の大きいメッシュがあるほか、木下駅周辺で減少しているメッシュが多くなっています。

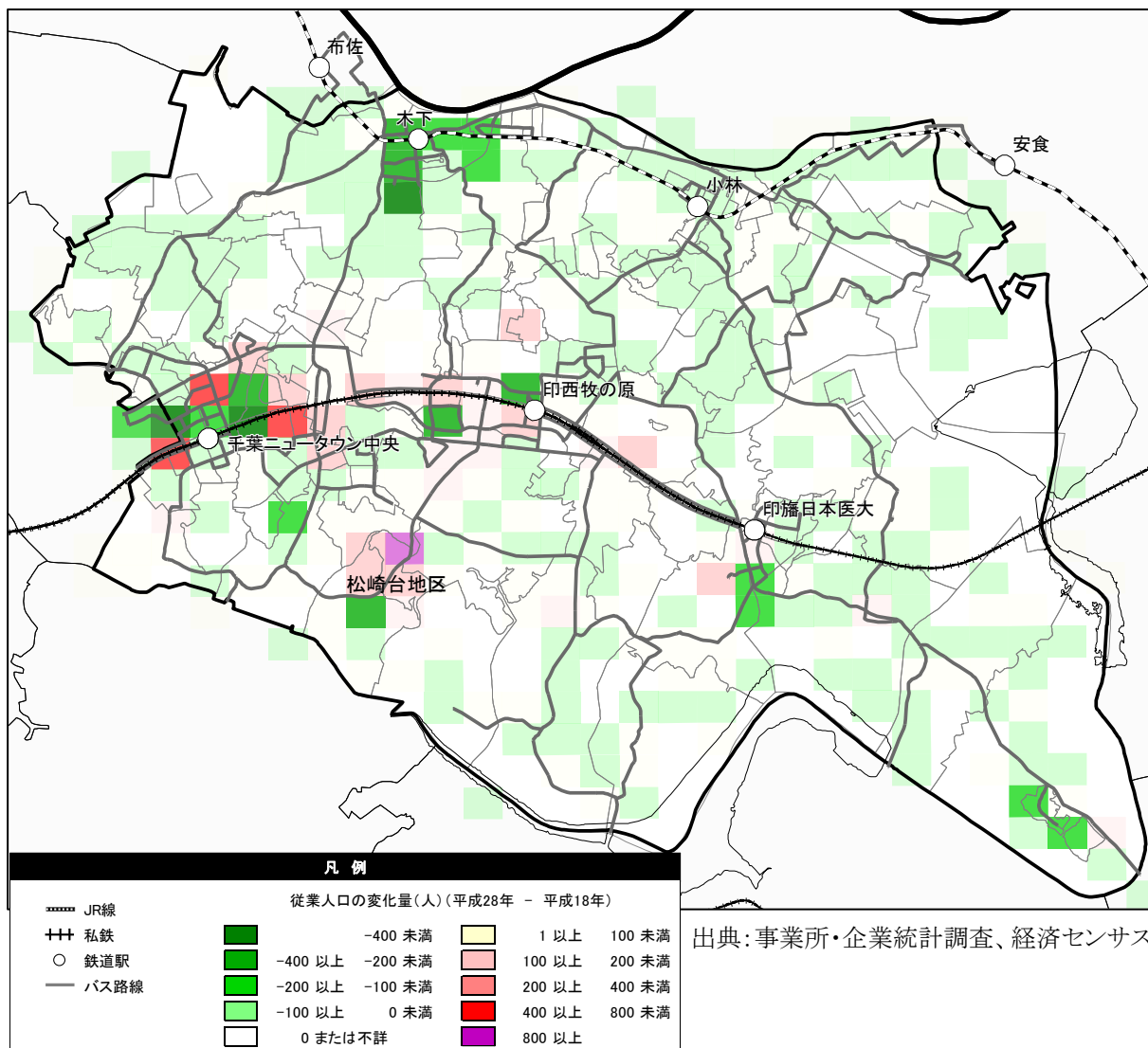
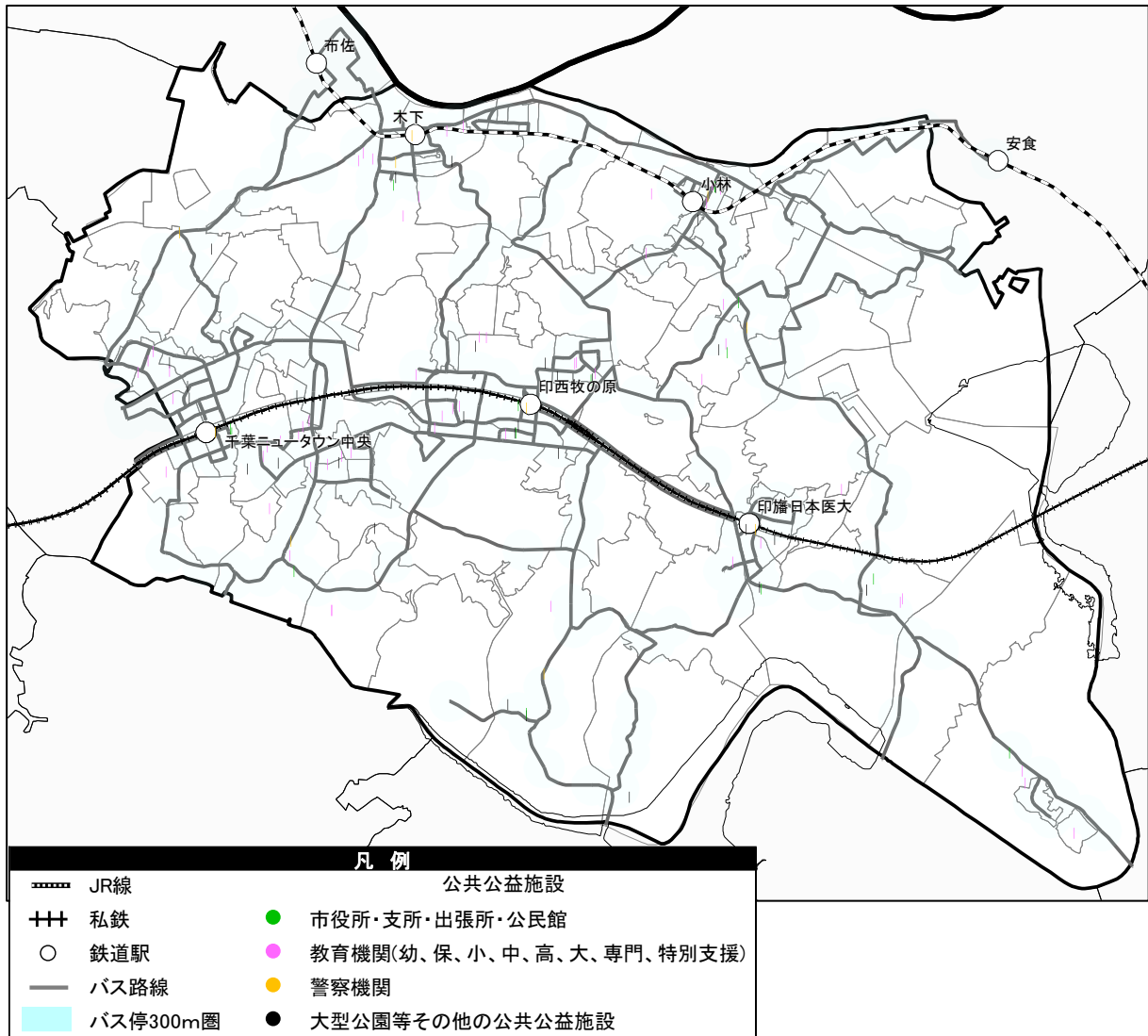


図12 従業員人口メッシュの変化(平成18年から平成28年)

1.2.4 主要施設

(1) 公共公益施設

- ・公共公益施設は、印西市の各地域に点在していますが、主に人口が集積する地域に多くが立地しています。
- ・また、施設の多くがバス停 300m 圏内または近傍に立地しており、公共交通による接続が概ね図られていると言えます。

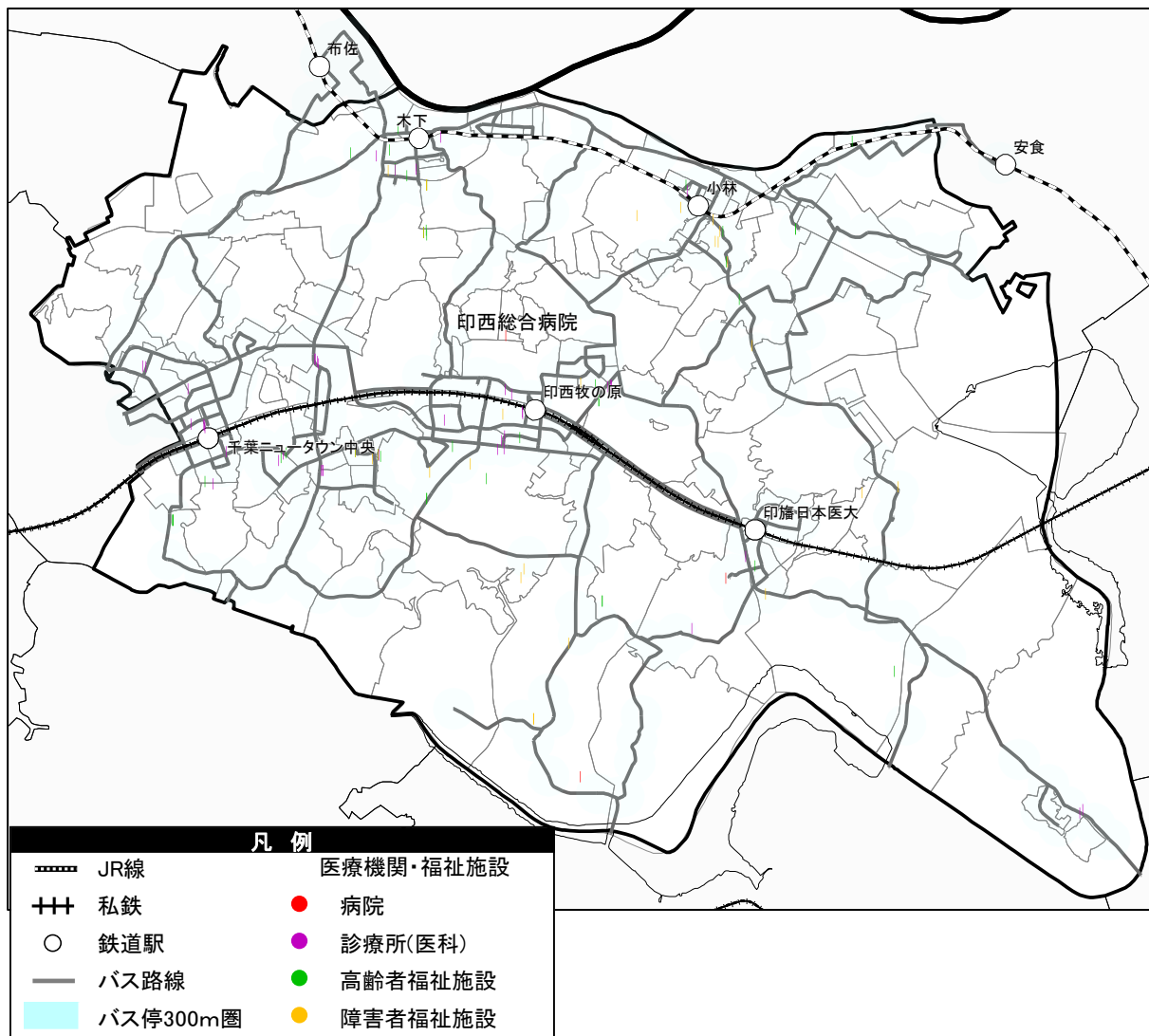


出典：国土数値情報、印西市 HP(令和元年 10 月現在)

図 13 公共公益施設の立地状況

(2) 医療機関・福祉施設

- ・医療機関は、千葉ニュータウン地区や木下駅周辺、小林駅周辺に多く立地しています。一方、福祉施設は鉄道駅から離れた地域に立地している場合も見られます。
- ・また、バス停 300m 圏内または近傍に立地している施設が多くなっていますが、印西総合病院は、鉄道駅、バス停からやや離れた場所に立地しています。

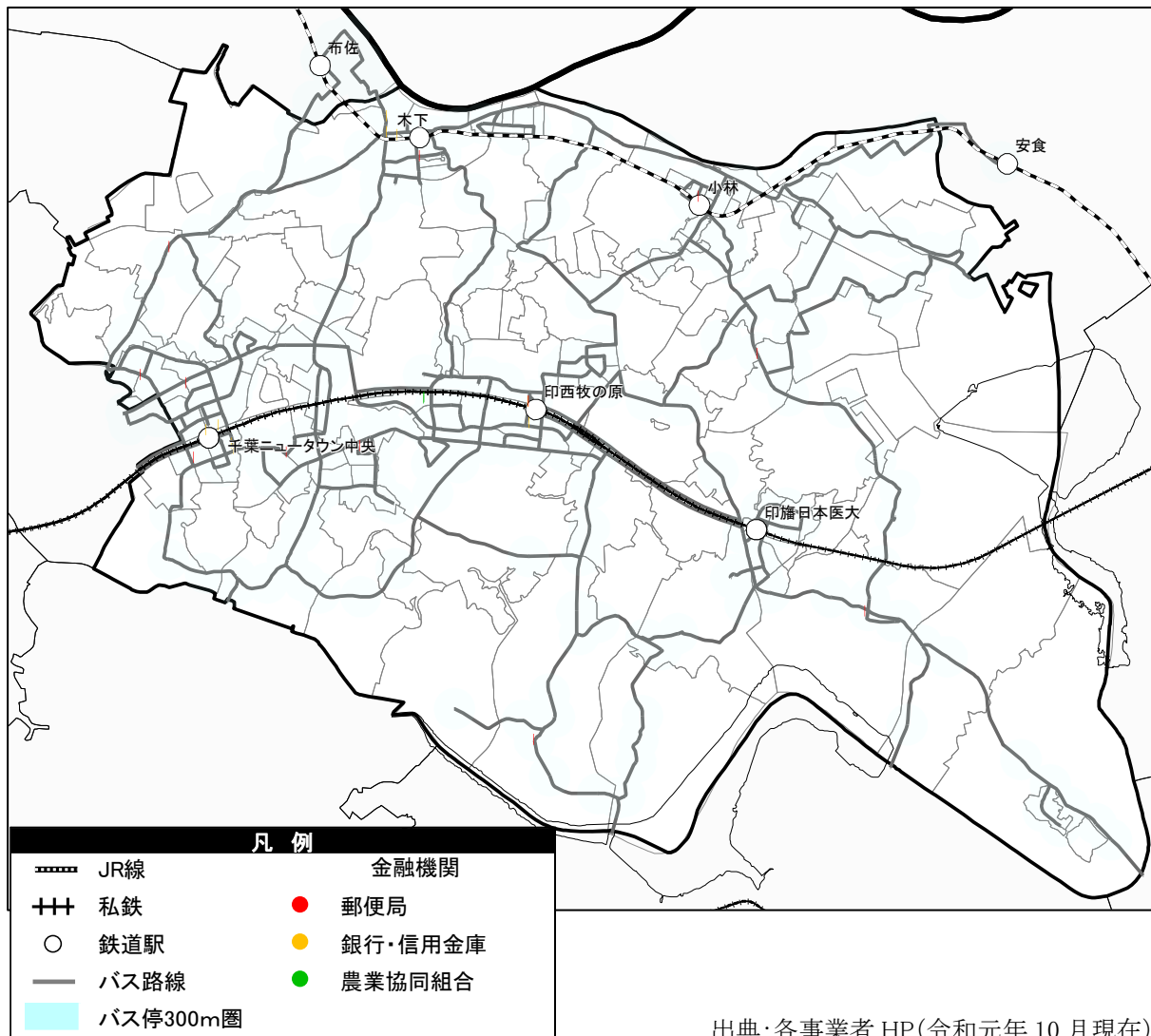


出典:国土数値情報、印西市 HP(令和元年 10 月現在)

図 14 医療機関・福祉施設の立地状況

(3) 金融機関

・金融機関は、鉄道駅の近傍やバスが走行する主要な道路の沿道に立地しています。そのため、全ての施設がバス停 300m 圏内にあります。

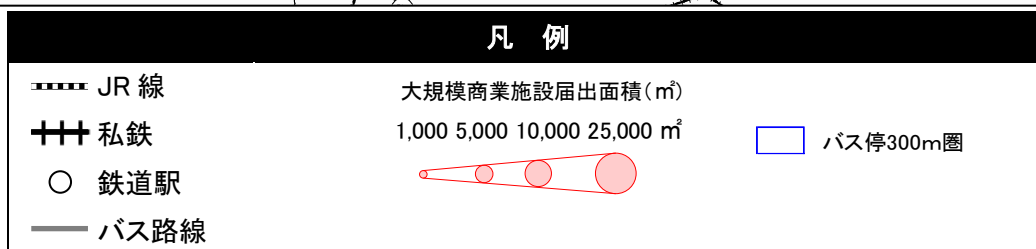
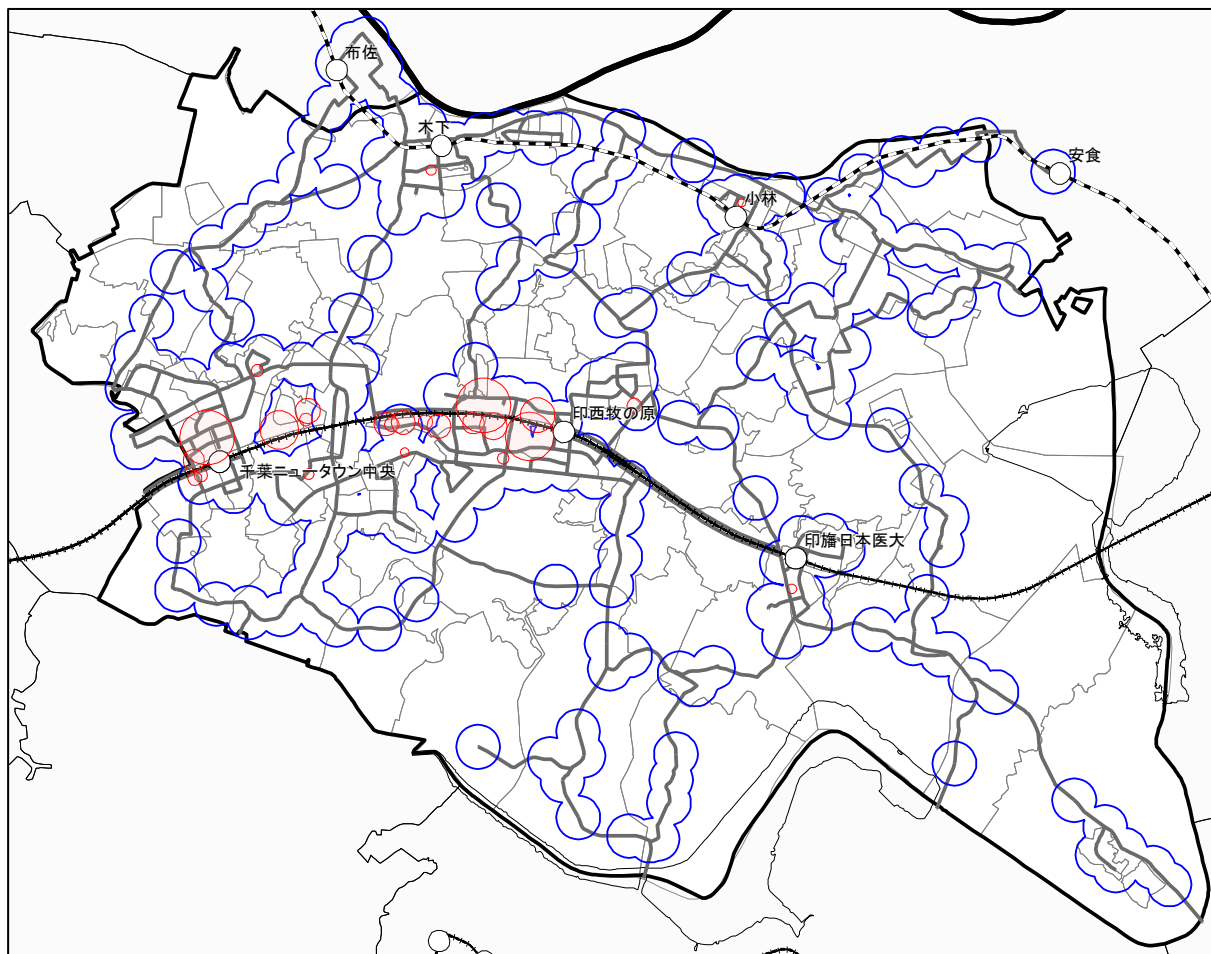


出典:各事業者 HP(令和元年10月現在)

図 15 金融機関の立地状況

(4)大規模商業施設

- ・大規模商業施設は、千葉ニュータウン中央駅から印西牧の原駅にかけて北総線(国道464号)の沿線に多く、その規模も10,000㎡を超える大型店舗が多く立地しています。これらは、鉄道やバスなど公共交通による来店、また、国道464号(北千葉道路)という車線数の多い道路からの来店が便利であり、立地が集中しています。
- ・その他の地域では、木下駅、小林駅、印旛日本医大駅の近傍に比較的規模の小さい商業施設が立地しています。



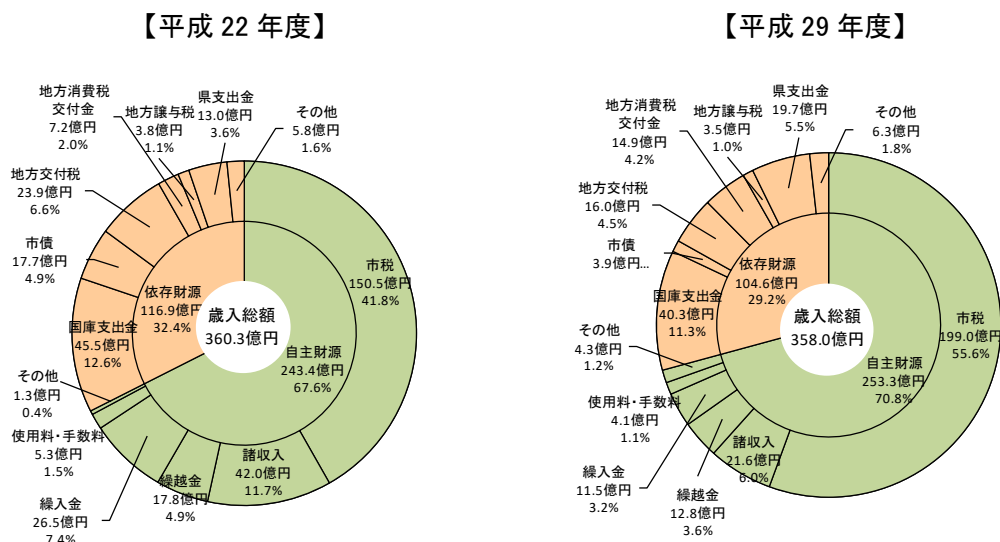
出典:「千葉県市町村別大規模小売店舗名簿(平成30年12月末)」(千葉県)

図16 大規模商業施設の立地状況

1.2.5 財政状況

(1) 財源別歳入

・印西市の財源別歳入を平成 22 年度(2010 年度)と平成 29 年度(2017 年度)と比較すると、自主財源の金額が増加し、自主財源比率も上昇しています。また、自主財源比率が平成 29 年度(2017 年度)で 70.8%と、近隣の自治体と比べ高くなっています。



出典:印西市財政状況資料集(平成 22 年度、平成 29 年度)

図 17 印西市の財源別歳入

市名	財源(平成29年度)	
	自主財源	依存財源
印西市	70.8%	29.2%
成田市	68.5%	31.5%
佐倉市	64.5%	35.5%
八千代市	62.8%	37.2%
柏市	62.1%	37.9%
白井市	58.7%	41.3%
我孫子市	56.4%	43.6%
富里市	55.7%	44.3%
四街道市	55.5%	44.5%
八街市	43.8%	56.2%

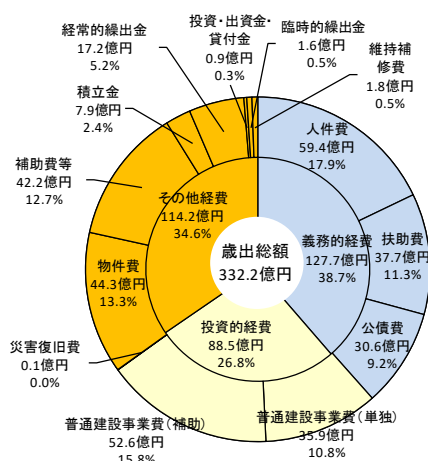
出典:財政状況資料集(印西市・成田市・佐倉市・八千代市・柏市・白井市・我孫子市・富里市・四街道市・八街市)(平成 29 年度)

表 1 財源の自主および依存率の周辺市との比較

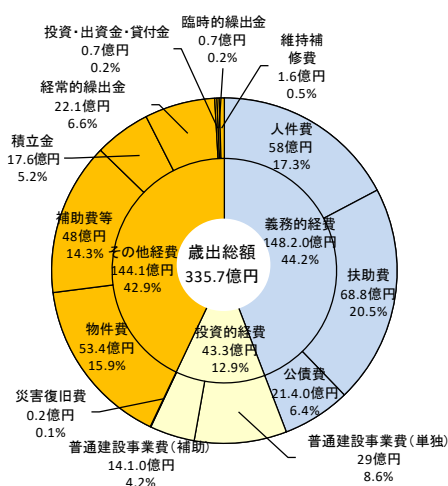
(2) 目的別歳出

- 目的別歳出額及び構成比を、平成 22 年度(2010 年度)と平成 29 年度(2017 年度)で比較すると、義務的経費割合が 38.2%から 44.2%へと拡大し金額も増加しており、その多くが扶助費によるものです。一方、投資的経費の割合は 26.8%から 12.9%へと縮小し、金額はほぼ半減となっています。また、バスの運行補助が含まれる補助費等は、12.7%から 14.3%へと拡大し、金額も増加しています。
- このように、投資的経費や補助費等が縮小される一方で、義務的経費が拡大しており、今後、生産年齢人口の減少、高齢者人口の増加が予想されることから、税収が減少する一方で扶助費が増加していくことが考えられます。そのため、今後は歳出に係る様々な経費の削減、事業の効率化が求められることが予想されます。

【平成 22 年度】



【平成 29 年度】



注) 印西市として合併後の初年度にあたる平成 22 年度と平成 29 年度を比較しました。

出典: 印西市財政状況資料集、印西市会計別決算総括表(平成 22 年度、平成 29 年度)

図 18 印西市の目的別歳出